

自分の思いや考えを豊かに表現できる子供の育成
～対話を取り入れた授業づくりを通して～

I 本校の研究の概要

本校の国語の力に関する課題

- ① 物語文を読んで登場人物の相互関係や情景描写の効果を捉える力の育成
- ② 複数の条件に応じて文章を書く力の育成
- ③ 自分の立場を明確にして話し合う力の育成

指導の重点

- ① 一人学びを通して読み取り、考えたことを書き表すこと
- ② 話し合い活動を通してお互いの考えを伝え合うこと

授業づくりにおける留意点

- (1) 魅力的な学習課題の設定
 - ① 考えに差異の生じる課題
 - ② 児童の読みから生まれる課題
 - ③ 単元末の言語活動に結びつく課題
- (2) 単元を貫く言語活動の設定
 - ① 単元を通しての課題意識
 - ② 単元終末の表現活動
- (3) 伝え合う場の設定
 - ① 一人学び（教材との対話）
 - ② 共学び（友達との対話）
- (4) 振り返りの場の設定
 - ① 国語日記（自己との対話）
 - ② 発見や気付きの交流

研修方法

- ① 学力向上推進教員を交えたミニ研修で学んだことを、授業の工夫改善に生かす。
- ② 自主研修会で、指導案検討及び指導上の課題や工夫についての協議を行う。
- ③ 本校の国語の力に関する課題について共通理解を図る。

II 公開授業の指導案

第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 松田 陽子

場所 1年1組教室

1 単元 くじらぐも音読劇～滝部小バージョンをつくろう～（光村図書1年下）

2 指導の立場

(1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく活発で、授業中ははりきって大きな声で読んだり、発言したりしようとする意欲はある。朝の会のフリートークや帰りの会で一言述べる活動を通して、友達の考えを聞いたり、自分の考えを述べたりしようとする姿勢が少しずつ見られるようになってきた。しかし、自分の考えや思いをしっかりと発言できる児童は数名で、どう発言したらよいか表現の仕方がわからず、なかなか発言できない児童もいる。

児童は、これまでに1年上巻「おおきなかぶ」「ゆうやけ」で動作化したり、声に出したりしながら楽しく読む学習に取り組んできた。文章の内容を正確に理解することや、想像したことを書くことに関しては個人差が大きいので、繰り返し読んだり書いたりする活動を取り入れてきた。またペアで書いたことを互いに確認させたり、読む練習をさせたりして対応してきた。

これまでの学習経験から、読んで想像したことを生かし、動作化したり、くり返しのリズムや読む速さなどに気を付けて音読したりする力が少しずつ身に付いてきた。この力を活用し、さらに登場人物の思いを文字言語化していくことで想像をふくらませ、場面の様子を思い描きながら音読に生かす力を付けさせていきたい。そして、1年下巻「たぬきの糸車」等で、想像を膨らませながら心情理解をしていく学習につなげていきたい。

(2) 身に付けさせたい力

学習指導要領の第1学年及び第2学年における「C 読むこと」の指導事項には、「ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること」「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」と示されており、想像を広げながら楽しんで読むことができるようにしていきたい。そこで、本単元では、次の力を身に付けさせていくようにしたい。

場面の様子や登場人物の気持ちを豊かに想像し、思いを生かして音読する力

(3) 教材について

「くじらぐも」は、体育の授業時間という身近な現実の中から、ふいと幻想の世界に入り、想像の世界で存分に遊んだ後に、また現実の時間と空間に戻るといふ物語である。自分たちと同じ1年生が、大空を舞台にして活躍する内容は、共感しながら大いに楽しんで読むことができ、「くじらぐも」と「子どもたち」のやり取りを動作化しながら音読することを通して、場面の様子や登場人物の気持ちを豊かに想像する力を付ける上で適した教材である。また、友達と繰り返し声に出して読み、物語の世界を十分に楽しむことで、作品への思いが高まり、「学習発表会で工夫を凝らした音読劇として発表したい」という意欲の高まりも期待できる教材である。さらに、会話文にかぎ（「」）を使うことを初めて学習する教材でもあり、ここでしっかり意識させることで、今後の書くことの学習の中で活用できるようにしていきたい。

(4) 指導について

指導にあたっては、次の点に留意したい。

① 魅力的な学習課題の設定

本単元では学習のゴールとして「くじらぐも音読劇～滝部小バージョン～を考えて音読の練習をしよう」という課題を位置付ける。「自分たちで考えたセリフを入れて、音読劇を考えることができた」「お話に合うよう上手に工夫して、音読できるようになった」という満足感が「学習発表会でもっと多くの人に聞いてもらいたい」というさらなる意欲へと高まるようにしたい。

② 単元を貫く言語活動の設定

まず、第1次では、「くじらぐもの音読劇～滝部小バージョン～を考えて音読の練習をしよう」という単元の学習課題を設定し、学習計画を立てる。

そして、第2次では、場面ごとに登場人物の心のつぶやきを書き込みノー

トに書かせて、行間を豊かに読むことができるようにする。さらに、会話文の読み方を中心にどのように音読を工夫するかを考えさせる。

第3次では、書き込みノートに書いた音読の工夫を生かして、登場人物になったつもりで、動作や声の大きさ・速さ・強さなどを工夫して、音読することができるようにしたい。また、書き込みノートの蓄積を基に、滝部小バージョンの台本を作り、学習発表会での発表につなげたい。

③ 伝え合う場の設定

登場人物の心のつぶやきや会話を書き込みノートに書く活動では、隣の席の児童と話し合い、話した中から書きたい言葉を吹き出しに書かせるようにする。全体に発表する活動では、本文のどこを基にして考えたかを明確にして発表できるようにする。

④ 振り返りの場の設定

国語日記は、書き出しの部分を教師が板書し、それに続けて書くようにさせる。早くできた児童の日記を紹介し、他の児童が参考にできるようにする。

3 単元目標

場面の様子を想像し、その様子が表れるように声に出して読むことができる。

4 評価規準

【言語活動】くじらぐも音読劇～滝部小バージョン～を考えて練習しよう。		
国語への関心 ・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・想像を広げながら、物語を楽しんで読もうとしている。	・会話文の読み方を工夫しながら、場面の様子がよく分かるように音読している。 ・場面の様子や登場人物の行動について、想像を広げながら読みとっている。 ・登場人物の心の中のつぶやきについて吹き出しに書き表しながら物語の世界を読み広げている。	・会話はかぎ（「 」）を使って書くことを理解している。

5 指導計画（全8時間）

指導過程	次	時	中心学習活動
単元の学習課題を設定し、学習計画を立てる	一	1	挿絵を手がかりに想像を広げながら、物語の内容の大体を捉える。
場面ごとに登場人物の心のつぶやきを書き込みノートに書き、行間を豊かに読む	二	2	「くじらぐも」と「子どもたち」が体操しているときの会話を想像し、音読の工夫を考える。
		3	「くじらぐも」と「子どもたち」が呼びかけているときの心の中のつぶやきを想像し、音読の工夫を考える。
		4	ジャンプする前に話した言葉を想像し、気持ちの高揚が表れるように、音読の工夫を考える。
		5	「くじらぐも」に乗ったつもりで、雲の上での会話を想像して吹き出しに書き、音読の工夫を考える。
		6	「くじらぐも」と「子どもたち」との別れの場面での会話を想像し、音読の工夫を考える。

書き込みノート に書いた音読の 工夫を生かして 音読練習をする	三	7	書き込みノートに書いたセリフや音読の工夫を台本としてまとめる。
		8	台本を基に、動作や声の大きさ・速さ・強さなどを工夫して音読する。

6 本時案

- (1) 主 眼 動作化を通して「子どもたち」と「くじらぐも」の様子が聞く人に伝わるように声の大きさや速さを工夫し、音読することができる。
- (2) 準 備 くじらぐも（プロジェクターで提示）
- (3) 学習の展開

学習活動	教師の働きかけ
1 声に出して3場面を読み、本時の学習課題を確認する。	○「くじらぐも」を投影して、児童が物語の世界に入りこむことができるようにする。
2 どんな音読の工夫ができるか、理由を付けて発表する。 ・動作化 ・3回の繰り返し	○徐々に声を大きくすることによって、登場人物の気持ちの高揚が表れるような読み方の工夫を考えることができるようにする。
3 2回目と3回目のジャンプをする前に話した言葉を想像し、書き込みノートに書く。 ・会話文の視写 ・自分の言葉	○考えたことを書く活動では書き込みノートを取り入れ、各自の考えをもって話し合いに参加できるようにする。 【教材との対話】
4 「子どもたち」の会話を発表し、話し合う。 ・文脈との整合の検討	○短く区切ってみんなに呼びかけるように発表するように促すことで、本文を基に考えたことや音読の工夫の理由を、分かりやすく伝えることができるようにする。【友達との対話】
5 子ども役になりきって、音読の練習をする。 ・自分たちで考えたセリフの工夫	
6 課題に続けて、国語日記を書く。 ・分かったこと ・今後生かしたいこと	○毎時間振り返りの場を設定し、国語日記に授業で発見したことを書かせ、今後の学習に生かすことができるようにする。【自己との対話】

(4) 評価

想像を広げて会話文を付け加え、場面の様子がよく分かるように音読することができたか。

(5) 板書計画

7 授業参観の視点

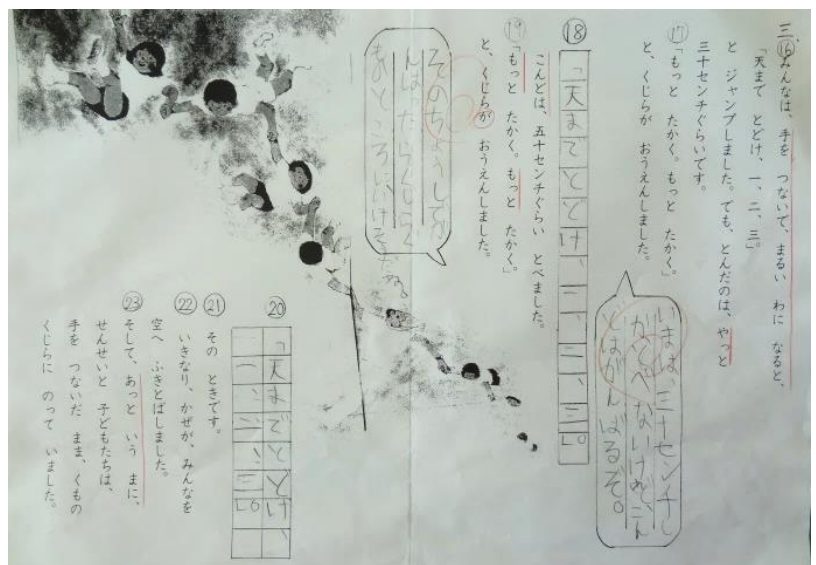
- 視点1：本文から読み取り、考えたことを伝え合うために、書き込みノートを取り入れたことは効果的であったか。
- 視点2：話し合い活動を仕組むことによって、音読を工夫することにつながったか。

Ⅲ 考察

1 研究協議での意見や提案

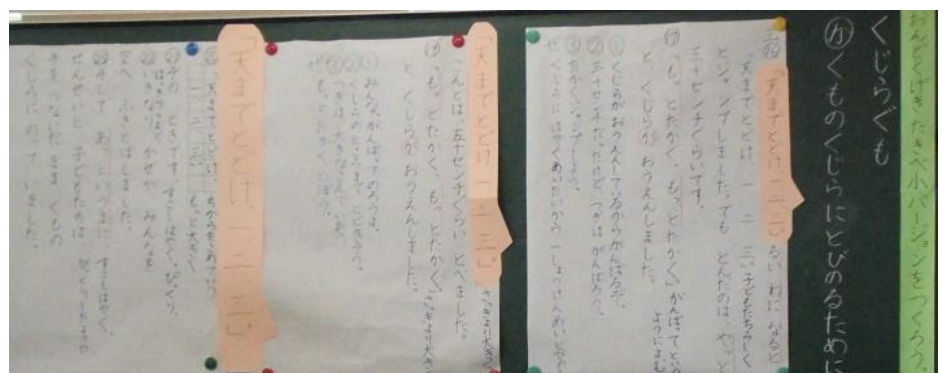
成果(○) 課題(●) 提案(※)

- (1) 書き込みノートについて
- 視写や書き込みができ、教科書の言葉も見つけやすく話し合いがしやすい。
 - マス目を使うことで原稿用紙の指導にもつながる。
 - 教材文とセットになっているので、叙述に基づいて考えやすい。
 - 支援を必要とする児童も比較的スムーズに書くことができ、書くことの訓練になる。
 - 板書と書き込みノートが同様なので今どこを学習しているのか分かりやすく、児童が安心できる。



↑ [書き込みノート]

↓ [当日の板書]



○一人ひとりが書き込みノートに自分の考えを書くことで、自分の言葉で考えを伝え合うことができた。

●隣の児童のノートを写す児童が多かった。国語日記は自分の考えを書くべき。

(2) 話し合い活動について

●話し合い活動があまり成立していなかったため、工夫につながったか不明。

●話し合いでの聞く力を付けていく必要がある。考えていない児童への対応。

●音読の工夫は「子どもたち」のセリフだけでよかったのか。「くじらぐも」のセリフや地の文も工夫できるし、大切なのでは。

●音読の工夫が出た時点で、児童に工夫させて読ませてみるとよい。

※教師が児童の思いや考えを解釈するのではなく、発言した児童に問い返したり、ペアで話し合うよう促したりするとよい。

※全員の児童の考えを出させるよりも、教師が見取った児童の考えをクラス全体に示し、話し合うようにさせるとよい。

※動作化をしたりセリフを言ったりしながら作っていくと、物語の楽しさを知ることができる。

2 授業後の考察

書き込みノートについては、よかったという意見が多く、1学期から続けてきた成果を見ることができた。今後もさらに改良して続けていきたい。

しかし、話し合い活動については課題が多く残った。考えて書くということに関しては個人差が大きいため、ペアで話し合う際、隣の児童のノートを写してもよいことにしていた。今回の研究協議を受けて、児童一人ひとりがしっかりと考え、自分の考えをもった上で話し合いに参加することが大事だと反省した。

そこで、翌日からペアで考えるのではなく、まず一人で考えて書くことに取り組ませた。すると、今まで書き込みノートが続けてきた成果か、ほぼ全員が自分の意見を書くことができ、国語日記も「自分で書けた」と喜ぶ姿が見られた。

また、ペアで意見交換をする活動を多く仕組むようにした。聞く力と話す力を鍛えるためである。相手の意見には、必ずコメントを言うようにしている。よいと思ったら「～の所がよいと思います。」というように、よいと思う所を伝え、おかしいと思ったら「それは聞かれていることと違うと思います。」と指摘するようにしている。ペアトークは国語だけでなく、算数や道徳でも取り入れている。全員が自分の思いや考えを伝えることが上手になってきた。今後さらに、学級全体での話し合い活動の質の向上を図っていきたい。

単元終末では、自分たちが考えたセリフを入れた滝部小バージョンの台本を作り、音読の工夫や動作も自分たちで考え、学習発表会に向けて一生懸命練習した。セリフだけでなく、地の文の読み方もいろいろと工夫していた。当日は全員が堂々と演技きり、「自分たちで考えたセリフを入れて劇を考え、お話に合うよう上手に工夫することができた。」と大満足だった。



[学習発表会の様子]

